



播種までの管理作業

麦作りには、播種が遅れないことが重要です！
適期に播種できるよう、ほ場準備を始めましょう！！

その1. 適期播種は基本です！

播種適期になったら、耕起、播種、除草剤散布までの作業を数日中に行いましょう。

そのためには、計画的なほ場準備が不可欠です。

なお、適期の播種量は6～8kg/10aです。播種が遅れた場合、12月上旬で2割、中旬ではさらに2割播種量を増やし、生育量を確保します。

麦の播種適期

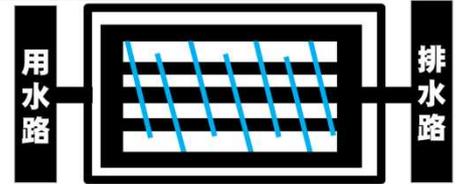
麦種	平坦地～準平坦地 (標高200m以下)	中山間地 (標高200m以上)
小麦	播種期 11/15～12/10 [※最適 11/20～25]	—
裸麦	—	播種期 11/10～25 [※最適 11/15～20]

その2. 排水対策で適期播種に備える！

事前の排水対策で雨による作業遅れを少なくできます。

- ①まず、水口を止める！
 - ・用水路から水が入らないよう、しっかり**止水**します。
- ②早めに額縁排水溝を掘る！
 - ・深さ30cmを目標に**額縁排水溝**を掘り、排水口に接続します。
 - ・額縁排水の水が滞水せずほ場外に出るよう注意します。排水口が額縁排水溝より浅い場合、可能なら麦用排水口を設置しましょう。
- ③弾丸暗きよと心土破碎(耕盤破碎)を！
 - ・**弾丸暗きよ**は、2～5mおきに施工しましょう。
 - ・弾丸暗きよを額縁排水溝に通すと排水が良好になります。

額縁排水溝施工例



弾丸暗きよは斜めに施工し額縁排水につなげる。

麦用排水溝施工例



弾丸暗きよ施工例



その3. 適正pHで生育良好！

麦類の**適正pH**は、**6.0～6.5**です。
土壌分析を行い石灰質資材を播種前に施用しましょう。

pH6.2を目標とした資材の施用量

資材の種類	kg/10a 土壌のpH		
	<4.5	<5.0	<5.5
ミネラルG ケイカル	300	175	85
炭カル	250	150	70
苦土石灰	240	145	65
ようりん	270	160	75

注) 上記は粘質～壤質土壌の施用量。